



発行
北海道平和婦人会
札幌市中央区
北3条西7丁目
道庁別館 2F
電話 011-241-0956
第 4 号
2015年10月8日

お城見学後は、白壁
となまこ壁が美しい
中町・縄手通りを散
策。

楽しかった！充実の3日間でした

長野平和と文化の旅

9月24日(木)〜26日(土)

戦後70年の今年、平和婦人会企画・札幌窪島会協力による「長野平和と文化の旅」には22名が参加。朝8時、新千歳空港を出発し、羽田からは貸し切バスで移動。一日目、二日目はあいにくの雨でしたが、長野の緑豊かな自然とおいしい空気を胸いっぱい感じ、癒され感動の三日間でした。

国宝「松本城」見学 一日目

現存する最古の城、400年の時を刻み、黒塗りの城は別名「烏城」とよばれています。闘うための城でした。城内は6階建てで、階段は狭く、傾斜が60度の所も。一段一段が高く(ふつうの階段の三倍くらい)、苦勞しながら、天守閣まで登りました。天守閣からの眺めはとても綺麗でした。

諏訪湖ホテルで夕食。地元の食材を使った美味しい料理に感激。自己紹介して交流し、親交を深めました。昭和初期に建てられた外装も内装も洋風づくりの「片倉館」千人風呂に入浴。当時の片倉財閥当主が地域住民のために建てたものだそうです。

原田泰治美術館見学 二日目

諏訪湖のほとりに建つ、美術館。大きな窓が額縁のようになって諏訪湖が望めます。泰治の絵は、日本のふるさと、美しい日本のこころが表現され、ほのぼのと、懐かしさや安らぎを感じさせます。

泰治は幼少のころ小児マヒにかかった事もあり、障がい者に優しい美術館となつています。目の不自由な方のために、絵画に凹凸をつけ、触ってわかるように配慮されていました。最新作「ポピー」は東日本大震災に遇った南相馬の高台にある一軒家とそこ

に住んでいるおばあさんを描いた絵。その家のすそ野いっぱい、何百本ものポピーの花が一面咲いています。種は撒いてはいないのに花が咲く。自然の力強さ・生命?、不思議さを感じました。



第62回北海道平和

婦人会総会

- ★日時 12月5日(土)
午後1時30分開会
- ★会場 かでる2・7 1050室
- ★講師 神保大地 弁護士
- (明日の自由を守る若手弁護士の会)
- ★講演 戦争法廃止!今、やるべき事は?
- みなさんのご参加をおまちしています



無言館・信濃メッセ館、天満敦子さんヴァイオリンコンサート

第二次世界大戦で没した画学生が
残した絵画を展示している無言館。

両親や恋人、兄弟に宛てた手紙なども展示されています。その文章を読むと胸が熱くなっています。一枚一枚にもっと描きたかった、もっと生きたかったというメッセージが伝わってきます。

午後からの窪島館主の「平和と文化」についてのお話は、哲学的で深いお話でした。

入口すぐに掲げられている裸婦のモデルとなった方が50年後初めて無言館を訪れた時のお手紙が紹介されました。彼女は画学生との思い出を胸に、生涯独身ですごしたと。絵というのには、文章と違って愛があるから描けると窪島館主は語りました。

天満さんのヴァイオリンは、今回で17回目。無言館の中で絵にむかって演奏する鎮魂曲。静寂の中にヴァイオリンの音が響き渡り圧巻の演奏でした。選曲も耳慣れた、トロイメライ、ユーモレスク、スワニー河、ねむの木の子守歌、五木の子守歌、

中国地方の子守歌など、故郷を思い起こす曲。そして望郷のバラード、ジュピター。一曲一曲終わるたびに「うおー」という歓声がおきました。会場の明かりが消え、「雪の降る街を」が流れ懐かしい日本の情景が目につかびます。

戦没画学生も一緒に故郷を思い起こしたのではないのでしょうか。



窪島館主と
槐多庵で

「らいてうの家」訪問三回目

今「らいてうの約束」をはたすとき―女性たちがつくる「戦争させない世界」―と題して米田佐代子館長さんに一時間にわたってお話いただき

きました。

「らいてう」の家は、来年オープン10周年です。1971年に「憲法を守りぬく覚悟」を遺言」として旅立っていった平塚らいてうの志を引き継ぎ「平和・共同・自然のひろば」と名づけた「家」は、全国からの募金と地元の方々の「世にも不思議な協同」によって建設されました。

らいてうは、昭和17年に疎開し、文章を書かなくなった。それは日本の戦争が侵略戦争と言い切れなかった、戦争をやめさせられなかったという思いで緊急避難として田舎に疎開した。そのとき詠んだ俳句が「生き生きて、また、秋風の中に立つ」この句は、己の主張を鮮明に生きようとして世間の風圧にさらされた自らの姿を見出だすでしょう。



米田館長
お話す

大正デモクラシーの中、奥村博史と事実婚をし、「私は私である」と二児の子どもを産み、子どもを安心して産み育てられる社会にと、母性保護などを訴え、与謝野晶子などと論争し、一躍社会的な現象となった。



市川房枝などと「新婦人協会」を2結成し「婦人参政権」「母性の保護」を要求した。第二次大戦後は、婦人運動とともに、反戦・平和運動を推進した。アメリカのダレス特使へ、全面講和をもとめ、平和について積極的な発言を続け、婦団連結成（1953年）には会長を務めた。

1970年安保条約には、病室から見ているのは偲びず、病をおしてデモをしたといえます。今、らいてうが生きていたら、この状況をいかにとらえ、何というか、私たちは共に考え行動しようという米田さんは話されました。

寄せられた感想

◎松本城見学

★階段の落差の厳しさにビックリ。上に行くほど激しい。でも上まで登ることができました。中町通り・縄手通り散策も楽しかったです。日本最古の松本城、中まで見学できてよかったです。

★城の内窓から外を見て、弓・鉄砲を放つても、外からは城内が見えない造り。大股でなければ階上に行けない階段、手入れされた廊下、何もかにも計算された城に感動しました。

★二度目の松本城。15年前はスタスタ降りた階段も恐る恐る降りました。良く登ったとおもいます。

★大変でした。知らないから登ったでしょうが……。あんなに高い階段だとは思いませんでした。でも、知っていても上りましたよ。

★雨の松本城。運動不足解消になりました。

★戦国時代へのタイムスリップで、この時代の女はどのようなに生きていたのか？自分の考えをもっていたのだろうか？とても気になりました。

★国宝はこの堅牢さ故かと思うほど

6階までの階段の段差の高さと急角度には、両手をあけていないと危険なほど緊張しました。脚・太ももに筋肉痛さえ覚えたほど。

★見学できて良かったです。ボランテイアの活動で気持ち良く運営されていると感じ、歴史あるまちの良さでした。

◎原田泰治美術館

★原画に接し、日本各地の風景をなつかしく、行ってみたいところが増えました。

★どの絵にもそこに暮らす人々が描かれており、温かい気持ちで見ました。バリアフリーとそこに椅子が置かれてあり、休み休み見させていただきました。原田さんの人柄がよく表れていたと思います。

★絵もすばらしいと思っていました。1Fの写真のすばらしさに、しばし足をとめてしまいました。又、障害者が足をはこび力をもらえる場所のような気がします。

★行けて良かった。娘に読んであげた「さだおばさん」に出会えてよかった。

★これは、知らなかったものですが、

見学できて幸せでした。知らなかっただけに大きな宝物を増やした様に思います。次の窪島さんのお話の時にジーンとくる文化の価値を感じるものでした。

★待望の美術館。もう一度ゆつくり見学したいと思います。あの絵から優しい昔の風景が見られ、孫たちにも絵から優しい作者の想いを感じてほしいです。

★窪島さんからの紹介で少し早く開館し、学芸員さんの説明もあり、心がいやされ、ほっとする原田さんの絵でした。

★旅から元気をもらった。あつたあつたこんな風景と田舎育ちの私。山の頂が雪で真っ白な羊蹄山である農村のどかな風景もなつかしい。

◎無言館、信濃テッサン館、天満さんヴァイオリンコンサート

★ゆつくり回って見る事ができました。窪島館主のお話、大変重みのある美術館としての命としての奥深い内容に思いました。無言館にかざつてある絵の価値を多くの人に足を運んで見てもらうのが……。日頃のご苦労の一端がしのばれました。

天満さんのヴァイオリンコンサート。戦没画学生の絵にささげるコンサート。17回目にまじかに鑑賞できて、貴重な経験になりました。又、きけるかな……

★これからさまざまな経験をして成長していく可能性をいっぱい持った若者が戦争へ。どんなに無念だったことか。子や孫には絶対こんな目にあわせたくないと思つた。ヴァイオリンコンサート、心癒された、やさしいしらべ。失礼な言い方だが、えらぶらない、人柄が調べになり、心地良かった。

★窪島さんのお話、平和と文化のお話、納得して伺いました。若くして亡くなった学生さんの想いを絵画からみながら語るお話、嬉しく思いながらおきき致しました。色々なご苦労がある中、私達へ訴えられた事、息子、娘へも語り続けなければと思いました。天満さんのコンサート数々の曲から、画学生と一緒に聞く事ができました。ありがとうございます。ステキでした。

★無言館は三周して、しっかり読みました。涙なくして帰れない美術館でした。今回の一番の収穫でした。

天満さんの演奏は北海道でも鑑賞して感動しましたが、無言館で、戦地に行った若者に聴かせるものだと言われて、いつそう、びつたりの演奏に驚きました。無伴奏でいいんですよ。演出もそして、あの選曲もみごとでした。空に向かって私たちの心も伝えてもらいました。

★念願の絵々にあえて満足です。窪島さんのお話は良かったです。天満さんの「望郷のバラード」聴けてうれし。

★無言館、天満さん、本当にすばらしい。無言館の画学生の人たちの命の重みに涙なくして見ることはできません。

★戦没画学生の絵画は、札幌、九州と展示会の度に見に行っておりましたが、あらためて、無言館という名前のふさわしい場所に、ひっそりとかかげられたたたずまいは、深く心に刻まれました。館主窪島誠一郎さんのお話は、平和・戦争・生きる・文化と絵を通して具体的に伝わり、涙なしでは聞けませんでした。

還暦を迎えてなお、チャージミグな天満さんのヴァイオリンは、無言館内に響き渡り、力強さは生きる力

へ、そして優しく温かく最後がしめくくられ、感動の時間になりました。

★雨のなかの移動が思ったより時間がかかりましたが、仕方ないですね。建物のすみずみまで建築時のこだわりが感じられ、その中での絵画鑑賞にひたることができました。建物間のスムーズな移動のために、表示を増やしてほしいと思いました。

天満さんのコンサート、予想以上に楽しくすごしました。天満さんの人柄の一端に触れることができた思いがします。

○らいつうの家

★手入れがゆき届いて、ひごろのみなさんのご苦労が偲ばれました。「らいつう」の家は多くの人達を迎えた歴史の重みを6年前より一層充実させている様子をかい間見る事ができました。帰りには米田館長のサインをいただき、次の100年へのらいつうに出あう旅”に思いをはせて帰路につきましました。

★女性の自立、今も追求しなければならぬ課題。多くの方のご尽力で平和・協同・自然のひろばとして存在していること、ありがとうござい

ました。

★らいつうさんの生き方を通して女性として何をすべきか。今後も仲間と一緒に語り行動してゆきたいです。★米田さんは北海道でもお会い（講演で）しましたが、まだ、そのままの若さとお元気で嬉しかったです。たかう元気をいただきました。らいつう”について勉強しなおします。

★もう一度勉強しなおさなければと、本を買いました。

★もう少し時間があれば「らいつうの家」のまわりを散歩するくらい時間がほしいですね。米田さんのお話は、何時きいても学べるものが大です。

★平塚らいつうについての詳しい知識はなかったですが、子どもを産み育てる女性としての直感が平和を必要とする行動へとつながる。あの暗い時代から戦後までを通して貫かれた信念の人であったと、少し知識が増えました。

★時間がたりない位でした。建物全体を見、雰囲気を感じる。お話をきかせて頂けてよかったです。運営する方々の熱意が伝わってきました。

旅全体についての意見・感想

★うえだ食彩館ゆりの里(直売所)大変良かったです。毎日行きたい心境です。

★旅システムのツアーは一人でも気兼ねなく旅することができた事がとても心強く思いました。

★“旅システム”でなければできない企画とそして、やり通せないものだと感じるやらありがたいやら。みごとと言うほかない様な旅の内容で、十分に満足にしています。ますます“旅システム”のファンになりました。

★あつという間でしたが、充実した三日間でした。バスガイドや添乗員の青木さんの配慮がすばらしい。

★二泊三日での日程は少しきついけれども楽しい旅でした。

★このような旅の企画を偶然に知りましたが、参加できて本当に良かったです。個人では訪ねるのは難しかったです。あきらめていた無言館でしたが、良い思い出ができました。丁度よい人数でまとまり、気軽に周りの方とのお話が出来、何よりみなさん元気なのは、びつくりしました。

◎剣淵町から二名の方が二日目合流しました。